

雨量計専用データロガー

本機は雨量観測のための機能に特化した雨量計専用のデータロガーです。降雨がない時はほとんど消費電力がないため、乾電池での運用が可能です。

雨量計専用データロガー



前面



側面

特長

- 小型、軽量、省電力で稼働
- 内蔵のSDカードに常時データ記録
- LANによる通信が可能
- データ収集装置(RP-4111)を使用すると、最大20地点のデータ収集が可能

データ収集装置



前面

機能

◆5年間、内蔵乾電池の交換不要

・ネットワークに接続せず、データロガーを単体で使用する場合、消費電力が微少です。乾電池交換の目安は、設置から5年間経過した時、または収録パルス数が30,000パルスに達した時になります。※オンラインで使用する場合は電源アダプタ(別売)が必要です。

◆観測データは常に内部メモリに保存

・降雨現象があるときは、雷雨などの厳しい気象現象がともなうことがあり、オンラインの観測システムであっても通信環境が影響を受けて肝心の雨量データが伝送出来なくなることがあります。そうした場合でも観測データが消失してしまうことを防ぐために、収集した雨量データは常に本機の内部メモリに記録されます。そのため、通信が途絶えた場合には、リアルタイム性は損なわれますが、観測データが消失することのないよう、ロガー内部に保持し、回線復旧時に回収したり、サイトで直接回収できるようになっています。

◆雨量と時間を記録

・記録される雨量データは時間と量の二次元情報です。本機は転倒ます型雨量計が発するパルスの発生時刻を収録します。

◆オンライン雨量監視は選べる2タイプ

・本機を直接PCIに接続すると、オンライン雨量監視が可能です。※専用表示ソフト(別売)のインストールが必要です。
・本機をデータ収集装置(別売)に接続すると、最大で20地点のオンライン雨量監視が可能になります。裏面の構成例を参考下さい。

◆オプション機能

- ・パソコン表示ソフト
リアルタイム表示、帳票表示、CSV出力、印刷可能
Web表示機能
- ・ブザー付きパトライト対応



気象情報通信株式会社

Weather Information & Communications Service LTD.

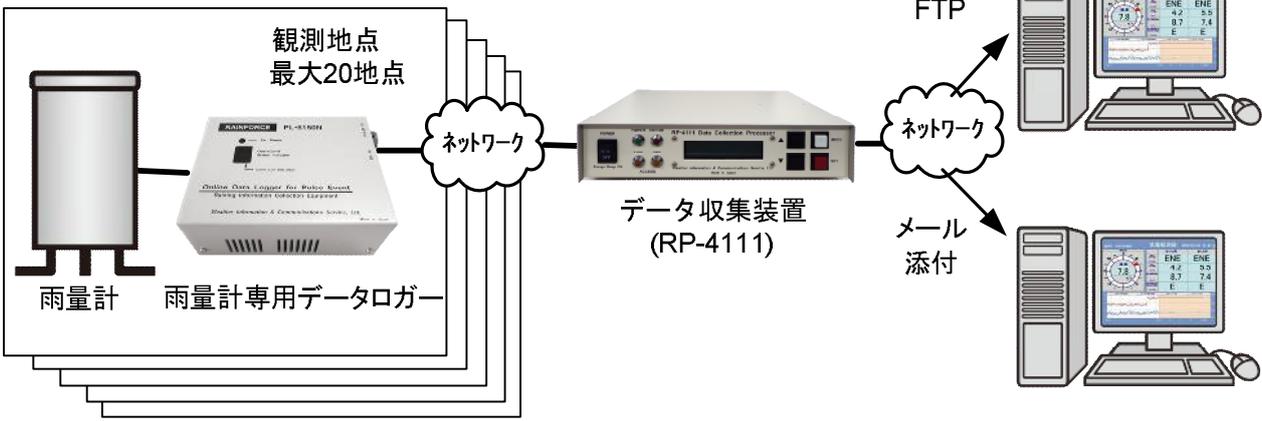
構成例

観測装置からPCで直接データを取得する場合の構成例

※データ収集ソフトのインストールが必要です



複数の観測装置からまとめてデータ取得する場合の構成例



◆雨量計専用データロガー PL-5150N

項目	本体仕様
入出力ポート	(1)転倒マス雨量計:無電圧接点信号 (2)イーサネット×1(10BASE-T/100BASE-TX自動判別)
サイズ・重量	90.5W×45H×121D,約470g
電源	円筒型リチウム電池 CR-P2-1型×1 オプション:電源アダプター(電圧6VDC,電流300mA以上)
耐サージ	3kV min
設置環境	0℃~+50℃
通信プロトコル	専用ソケット通信
オプション	UPS,AC100V電源アダプター

◆データ収集装置 RP-4111

項目	本体仕様
入出力ポート	(1)10/100base-TX LANポート (2)WANまたはPC直結用Ethernetネットワークポート(RJ-45 LANコネクタ) RS-232C非同期シリアルポート×1ch (3)Dサブ9ピンのシリアル信号接続用ポート
サイズ・重量	220W×150D×60H,約1.8kg
電源	DC10V~36V
アナログ入力耐サージ	3kV min
設置環境	-20℃~+70℃
データ転送方式	FTP(PUT),E-Mail形式
統計処理	10分値、1時間値、積算値など

◆オプション

表示ソフトウェア	監視用ソフトウェア
パッケージソフト	データ二次処理、表示、印刷、データダウンロード

お問い合わせ窓口:気象情報通信株式会社

本社 業務部 TEL:03-5958-8210

北陸事業所 TEL:076-201-0900

E-mail sales@wics.co.jp